

肝胆膵・移植外科

■ 当科の特徴

当科は、消化器外科の中のサブスペシャリティー領域であり、肝移植を始めとした肝胆膵高難度手術（下記）を主に行っております。研修医として手術執刀の機会は殆どありませんが、京大病院でしか学べないことも多くあります。すなわち、当科での研修によりこれら疾患の手術適応、輸液・栄養管理を中心とした周術期管理（とくにICU入室中のcritical care）を学ぶことは、外科を目指していない研修医にとっても、必ず有意義な経験になるものと考えています。

- ◆ 国際的な生体肝移植の診療拠点～国内随一の肝移植症例数
- ◆ 肝胆膵領域における日本有数の手術症例数
- ◆ 癌の根治を目指した拡大手術～特に血管合併切除
- ◆ 肝胆膵 腹腔鏡手術
- ◆ 膵・十二指腸領域内分泌腫瘍の先進的診断と治療
- ◆ 膵島移植による糖尿病治療

■ 経験豊富な指導医体制

当科では下記の指導医・専門医体制で研修医の指導を行っています。

	認定医	専門医	指導医
外科		16	10
消化器外科		14	7
内視鏡技術	4		
肝胆膵高度技能		9	1

■ 本研修プログラムのねらい

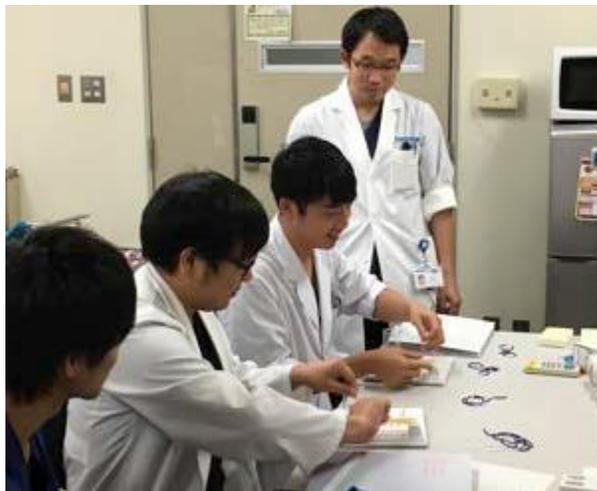
1. “考える研修医の養成”-基礎知識の習得と病態把握
2. “決断できる研修医の養成”-行うべき検査の決定、結果の解釈と治療方針の決定
3. “手の動く研修医の養成”-処置、手術手技の習得
4. “社会人の養成”-医の倫理の遵守・チーム医療
5. “時代を切り開く研修医の養成”-学究的態度の日常化

■ 1年次の研修目標

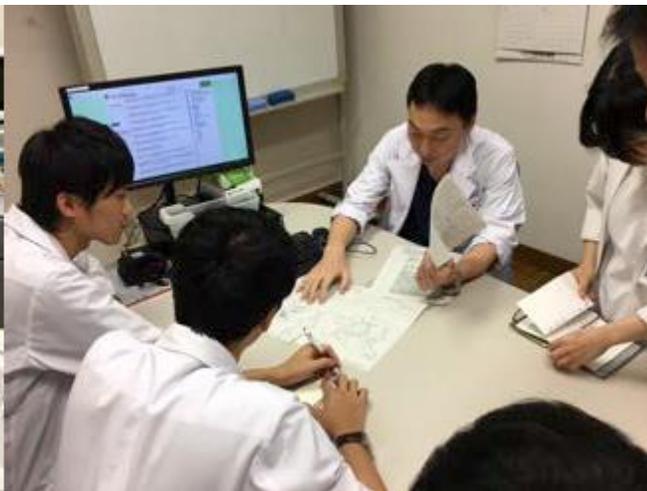
1. **チーム医療の一員**としての役割：チームの中には医師、看護師、薬剤師、ME等様々な職種の方がおられます。他職種間における良好なコミュニケーションは仕事効率のアップにつながります。実践を通じてのスキルアップをして頂きたいと考えています。もちろん患者およびその家族とのコミュニケーションも大切です。良好な医療者-患者（家族）関係はトラブルを最小限にとどめることが可能になります。
2. **情報収集能力とプレゼンテーション能力**：初めて経験する疾患については、その一般的病態を理解する必要があります。最新の情報を得、治療方針決定に役立ててください。カンファレンスでのプレゼンテーションは特に重要です。その場で各自がその症例についてどれ程深く“考え”、判断し、“決断”できたかが問われます。指導医とともに治療計画の決定に携わって欲しいと考えています。
3. **必要な検査の決定と結果の解釈**：採血一般検査、各種画像診断の選択とその順序を判断し、オーダーすることが必要です。
4. **カルテ記載**について：理学的所見（その医者が現場で診察して何をみたか）、諸検査の結果とあわせてどう判断し、どのような対処を行ったか、そしてその結果がどうなったか（評価）について、“医者の考え方のプロセス”を示すカルテを記載してください。
5. **手技**：末梢静脈確保、動脈採血、胸腹部エコー、結紮、皮膚縫合などを習得してもらいます。
6. しかし、実地だけでは知識の習得は困難です。その都度、指導医に質問すればいいのですが、体系的な知識を整理してもらうために、定期的に専門医による下記の**ミニレクチャー**を開催しております。当科ローテート中でなくても、誰でも受講可能ですので、興味がある方は、八木までご連絡下さい。

予定しているミニレクチャー

1. 輸液管理
2. 糸結び、縫合、腹腔鏡操作（鉗子、スコープ）の基本手技
3. 手術記事・イラストの書き方
4. 栄養管理（経腸栄養、静脈栄養、サルコペニアなど）
5. 肝臓・胆道に対する外科治療（術前評価、肝予備能評価、手術、周術期管理など）
6. 手術シミュレーションについて～Vincentの使い方
7. 膵疾患に対する外科治療（術前治療・適応、手術方法、周術期管理など）
8. 肝移植（ドナー・レシピエント適応、周術期管理、手術など）
9. 膵・膵島移植
10. 小児外科疾患
11. 移植における拒絶反応・免疫抑制剤の使い方について
12. 論文・学会発表のすすめ



糸結び、縫合のハンズオンレクチャー



手術記事・イラストの書き方講習

■ 2年次の研修目標

1. 研修1年目の達成目標項目にさらに磨きをかけてください。さらに、1年目でローテーションした他科での経験も極めて大切です。特に、循環、呼吸、内分泌・代謝、感染など全身管理に必要な医学知識と実際のスキルを深めてください。1例1例を1年目より深く考えて治療に当たることができるようになると思います。
2. 手技：CVライン挿入、切開、ドレナージなど。手術中の手技については、日頃から手術を良く観ておく事が肝要です。各自の習熟度に応じてステップアップしていきます。

■ 研修が推奨される診療科

消化管外科、消化器内科、麻酔科など

■ 診療科からのメッセージ

研修をどの病院、どの診療科で行うかについて、みなさん色々お考えの事でしょう。

「自分は外科医にはなりたくないのに、仕方なくどこかで外科研修を行わねばならない。一体、何を学ぶのか？」と感じている方も多いと思います。当科は、特に肝移植に関しては全国から多くの患者さんが来院し、全世界の移植外科医が随時見学に来ております。外科医を志さない先生方も、「折角、京大病院で研修するからには、」当科での最先端の肝胆膵・移植診療に携わり、経験することは、今後の医師経験において、必ずプラスになるものであると信じますし、私達もそのようにサポートしたいと思います。

■ 問い合わせ先

・肝胆膵・移植外科、小児外科

田浦康二郎准教授

連絡先：075-751-3242

(担当：八木 真太郎 助教；e-mail: shintaro@kuhp.kyoto-u.ac.jp)